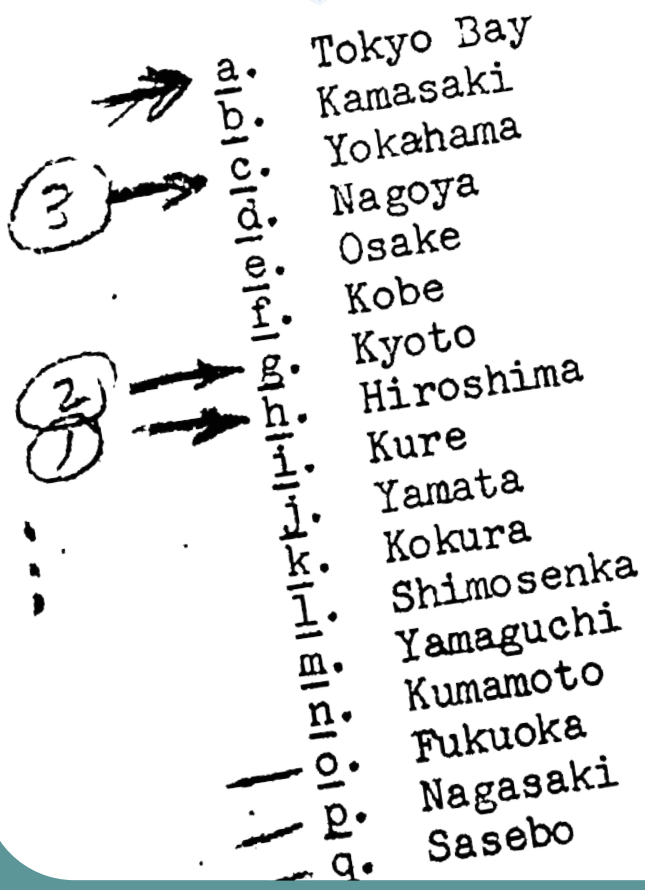
立命館大学国際平和ミュージアム・平和教育研究センター
「平和博物館の戦争体験継承」研究会

「準被爆都市」の平和資料館

―北九州市平和のまちミュージアムとその周辺―



2023年11月10日（金）

17：00～19：00　立命館大学国際平和ミュージアム
アカデメイア立命21　セミナー室1

報告者　**鈴木 裕貴** 氏
（立命館大学衣笠総合研究機構・研究員）

報告概要

第二次大戦末期、福岡県小倉市（現・北九州市）は広島市に次ぐ二発目の原爆投下の有力な候補地とされていた。2022年4月、公設の資料館としてオープンした「北九州市平和のまちミュージアム」は、こうした「準被爆都市」としての市民意識を反映する施設である。被爆資料が中心展示とされているわけではないものの、「被爆」を重要なコンセプトの一つとする資料館の誕生は、市内外のメディアで大々的に取り上げられた。

しかし、同館への注目の高まりの一方で見落とされがちなのが、1990年代以降続けられてきた、平和資料館建設を求める市民運動の存在である。公設ミュージアムの開館は、こうした一連の運動の成果と言いうるものであったが、2023年6月には、この市民運動を引き継ぐ形で、再度民間の平和資料室が若松区で開館した。小倉が投下候補とされた背景にある、同市の軍事都市としての性格を中心に展示する同資料室は、公設の資料館と「補完」関係にあるとともに、他面においては鋭い「対称」関係にあるとも言える。

本報告では2022年に開館した北九州市平和のまちミュージアムを中心に据えつつ、その概要紹介のみならず、1990年代以降の平和資料館建設運動の歴史、また2020年代の民間の平和資料室建設運動との比較をふまえ、通時・共時両面からの複合的な把握を試みていきたい。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1　TEL 075-465-8151
FAX 075-465-7899　MAIL io1025-a@st.ritsumei.ac.jp（大月）